

e-Learningシステムを活用した自律学習環境づくり の試み：韓国語学習における実践を中心に

曹，美庚

九州大学大学院言語文化研究院言語環境学部門：准教授

<https://doi.org/10.15017/10057>

出版情報：大学教育．14，pp.43-59，2008-03．九州大学高等教育開発推進センター
バージョン：
権利関係：



e-Learning システムを活用した自律学習環境づくりの試み

—韓国語教育における実践を中心に—

曹 美 庚

大学教育 Kyushu Journal of Higher Education

第14号 平成20年3月

九州大学高等教育開発推進センター

Center for Research and Advancement in Higher Education

Kyushu University

e-Learning システムを活用した自律学習環境づくりの試み

－韓国語教育における実践を中心に－

九州大学大学院言語文化研究院・准教授 曹 美庚

キーワード：ICT, WebOCM, 自律学習, 異文化理解, 異文化間コミュニケーション

Keywords: ICT, WebOCM, self-learning, cross-cultural understanding, cross-cultural communication

Abstract:

It seems that the goals of foreign language education at university include both foreign language ability and cross-cultural understanding. There are not so many class hours enough to achieve those goals of foreign language education in Japan. One of the most effective ways to resolve the problem is to make the best use of the computer-assisted self-learning systems. As an effort to assist after-class hour learning, WebOCM system has been introduced in Korean language classes at Kyushu University. This paper examines the structures and effects of the system. The implications and challenges of the system are also presented.

1. はじめに

現代社会は、情報技術の進展や交通手段の発達により、急速にグローバル化が進みつつある。自宅に居ながらにして、世界のどこにでもヴァーチャルな旅ができ、世界中の情報を収集することも可能となってきた。また、実質的な人口移動もグローバル化している。グローバル化に伴い、人々は多言語・多文化の人種と関わりを持つ状況が頻繁に生じており、国際社会において多言語・多文化間理解が強く求められている。このような情勢の中で、「多言語・多文化間理解」のための共通言語として英語の果たす役割は大きく、その度合いもますます強まってきている。しかし一角では、英語一極化に対する憂慮感をも提起されている。

アメリカでは、近年、初等学校から英語以外の外国語教育に取り組み始めた。また、EU 加盟国の間でも、「ヨーロッパ言語年2001」の新教育プログラムがまとまり、高校卒業までに母語以外に2カ国語を習得することなどが盛り込まれた¹。さらに、欧州の学生・教員交流プログラム「エラスムス (Erasmus)」²では、高等教育機関の学生や教員の欧州域内でのモビリティ（移動性）を高め、他国で学んだり、経験を積むことを支援することによって、異文化間理解の促進を図っている。さらに欧州では、「2008年欧州異文化間対話年」³を指定するなど、「多言語・多文化社会の共生」の実

¹ 2001年現在15カ国11公用語から、2007年現在27カ国23公用語となっている。

² 「エラスムス (Erasmus)」計画とは、EU 諸国における各種の人材養成計画、科学・技術分野における加盟国間の人物交流協力計画の一環として行われるもので、大学生・教員・研究者の総合交流推進計画である。単位互換制・授業料免除のシステムのもと、マルチリンガルのヨーロッパ市民の育成を目指して実践されている。この計画は、1987年に始まったもので、1995年にはEUの教育分野の行動計画である「ソクラテス」計画の一部（高等教育部門）として統合された。

現のために努力している昨今である。このように、国際社会では、中等教育の段階から英語以外の外国語教育に取り組んでいるのに比べ、国際文化フォーラム（2005）によれば、日本では、わずかな高校生が英語以外の外国語を履修しているのが現状である⁴。さらに日本の大学においては、1991年のカリキュラムの自由化や、2001年7月に文部科学省が行った『『英語が使える日本人』の育成のための戦略構想』により、英語以外の言語は必修科目から選択科目に転じると共に、履修単位の削減の傾向も進んでいる。中等教育段階から英語以外の外国語教育に積極的に取り組んでいる国際社会の動きからすれば、日本はむしろ逆方向（すなわち、英語一極化）へ進みつつあるように思われる。

本稿では、このような問題意識をベースに、日本の大学における第二外国語教育の現状とそのあり方について考え、韓国語の場合を例に、ICTを導入した自律学習環境づくりの意義について検討したい。

2. 日本の大学における第二外国語教育

大部分の日本の大学生は、大学ではじめて英語以外の言語文化に触れることになる。大学で英語以外の外国語科目を学ぶ意義は、言語文化の多様性を体験し、当該言語を媒介に他文化の人々との関わりを経験することで、異文化理解を促し、異文化間コミュニケーション力を養成することにある。当該言語の習得を通じてその言葉の中に溶け込まれている文化や思想を学び、当該言語で情報を捉え、当該言語で自分の考えを再発信することができれば、大学で外国語を学ぶ目的は概ね達成されたといえよう。

もっとも、大学における外国語教育が、語学のための学習や文化のための理解で終わるのは望ましいことではない。前者は、「駅前の語学塾」でも可能であり、後者についても、必ずしも大学の語学授業に頼る必要はない。大学における外国語授業だからこそ、語学運用力と異文化理解の両方を併せ持った「異文化間コミュニケーション力」の向上が要求されるのである。語学運用力を伴わない異文化理解のみでは、消極的なコミュニケーションに留まることになる。というのは、日本語で異文化を理解し語ることができてその波及効果は限られるからである。当該言語で情報を捉え、その情報の中に含まれている内容を理解し、当該言語で自分の意見を再発信してこそ、真の異文化間理解が可能になってこよう。ただ、このような言語運用能力を養成するには、当該言語を用いたかなりの時間に及ぶ実践トレーニングと、当該文化について語り合いながら考察する時間が必要である。異文化間コミュニケーション力の向上は、異文化理解と言語運用力の両方を兼ね備えてこそ可能になるといえよう。

しかしながら、大学における現状の第二外国語教育では、このようなコミュニケーション力を養

³ 欧州委員会は、「より健全な社会のために異文化間の対話と交流が必要である」との見解を示し、2008年を「異文化間対話年（交流年）」としている。民族的・宗教的な違いから生じる偏見や誤解をなくすことを目的とする同委員会は、対話の重要性を強調し、共通価値と相互理解を促進し、議論と意見交換を促進する活動を行うことにしている。

⁴ 国際文化フォーラム（2005）『日本の学校における韓国朝鮮語教育－大学等と高等学校の現状と課題－』の調査によれば、英語以外の外国語教育の2003年度の実施率（実施校数／全学校数）はどれも1割に満たない数で、多い順に中国語8.74％、フランス語4.32％、韓国語4.03％、スペイン語1.86％、ドイツ語1.84％となっている（国際文化フォーラム（2005）、p.20）。

成することは容易なことではない。九州大学を例にとると、同大学の「言語文化基礎科目」では、英語以外の外国語を第一外国語として履修する場合、文系学生は7単位（理系6単位）が必要であり、第二外国語として履修する場合は、文系学生は5単位（理系4単位）の履修が卒業に必要な単位と定められている⁵。理系学生は、概ね1回生の時に第二外国語を履修（通年4単位）しており、年間約78時間（90分×週2回×26週÷78時間）を外国語学習に割いていることになる。もう少し興味を持って外国語学習を続ける場合でも、1回生の時の通年4単位と2年生1学期の2単位までで、3学期合わせて約120時間（90分×週2回×39週÷117時間）あまりを外国語とその文化の習得に費やしていることになる。一つの外国語の習得を通じて異文化間コミュニケーション力を養うまでに、この120時間という学習時間は明らかに少なすぎると言わざるを得ない。

では、どのようにして「語学学習を通じて異文化理解とコミュニケーション力を養成する」という大学における第二外国語学習の意義に沿うことができるであろうか。100時間前後の授業で最大限の効果を生み出すためにはどのような方法が考えられるだろうか。この問いかけに対する一つの有望な答えとなるのが、情報コミュニケーション技術（ICT: Information Communication Technology）をベースとした e-Learning である。ICT を外国語教育に導入すれば、従来教室内で習得度アップならびに理解度確認のために行われてきた反復練習と繰り返し説明の部分を省くことができ、授業の充実化が図られる。すなわち、反復練習の部分や、教師の介入が必ずしも必要でなく授業外でできる部分を学生各自の自律学習に委ねることによって、授業内では、実践的コミュニケーション・トレーニングや異文化に関する討論などに多くの時間を割くことができよう。学生による自律学習の一方法として ICT を利用することによって⁶、よりインタラクティブでインテンシブな授業が可能となる。

3. ICT による韓国語自律学習の試みと学生評価

前節では、日本における第二外国語教育の現状を踏まえ、ICT による自律学習の必要性を述べた。ここでは、九州大学を例に、平成19年度韓国語クラスで行われた ICT 化の試みについて考察したい。韓国語クラスでは、LMS（Learning Management System）である WebOCM⁷を導入して韓国語教育及び自律学習の ICT 化を試みた。一般的な LMS は、自らのシステムのなかに教材コンテンツを build in しているのに対し、WebOCM は教材コンテンツを add on することを基本としている。さらに WebOCM では、リンクによってヴァーチャルな教材コンテンツ体系をネットワーク上に構築することができる。その概念図は図表1のとおりである。

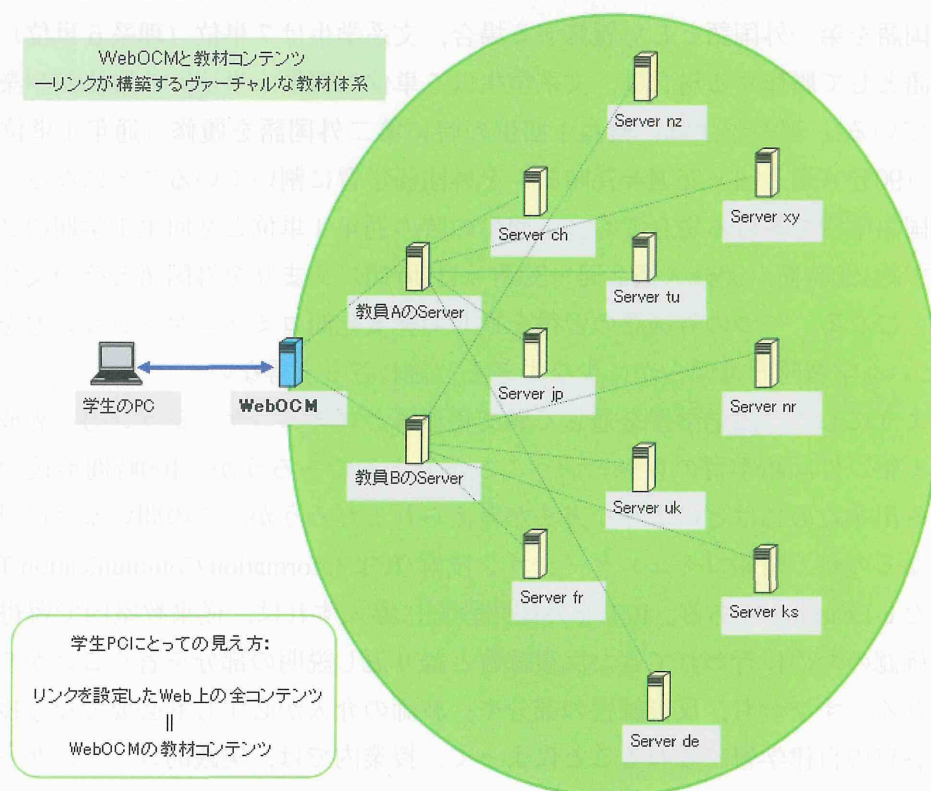
韓国語の場合、文字や発音、文法、文化のいずれの部分においても、韓国語を外国語として学ぶ日本人学習者のための Web 学習コンテンツが乏しい。それは、これまでの日本における韓国語学習者の傾向を反映するものでもある。2002年ワールドカップ共催以前は、日本国内における韓国語学習者の数が少なかったため、一クラスの学生数も少なく、ICT をベースとした e-Learning 教材開

⁵ 平成19年度全学教育科目履修要項による。

⁶ 京都大学におけるフランス語・中国語への ICT 導入、東京大学におけるスペイン語への ICT 導入、上智大学におけるフランス語への ICT 導入、大阪大学や東北大学におけるドイツ語への ICT 導入など、数多くの実践事例が報告されている。

⁷ WebOCM は、大阪大学で開発された外国語学習に特化した e-Learning のための LMS システムである。

図表1 リンクによって構築される WebOCM のヴァーチャル教材コンテンツの体系



〈出所: 杉浦謙介「WebOCM による e-ラーニング実施マニュアル」ホームページ,
http://www.he.tohoku.ac.jp/~sugiura/elearning_manual/〉

発によるコストが便益を上回ったと考えられる。そこで、一般的な韓国語クラスでは対面授業が優先され、ドイツ語やフランス語などのヨーロッパ言語のような、ICT を活用した Web 学習コンテンツの開発が遅れてしまったという経緯がある。近年、日本におけるドイツ語やフランス語などのヨーロッパ言語においては、Web ベースの教材コンテンツが体系的かつ大量に開発されており、全面的な ICT 化授業への取り組みが試みられている大学もある⁸。

しかし、韓国語の場合、体系的なコンテンツも整っておらず、はじめてハングル文字に接する学習者を対象に全面的な ICT 化による自律学習に踏み切ることには若干無理がある。そこで、リンクによってヴァーチャルな教材作成が可能である点を利用し、WebOCM による部分的 ICT 化を試みることにした。WebOCM の LMS 機能には、コミュニケーション・ツールとして「新世界」が備わっており、この「新世界」機能を使えば、学生への連絡も作文の添削も可能である。さらに、学習管理やテスト問題作成、出席・成績管理をも行える。本節では、これらの機能を活用した韓国語クラスの試みについて考察したい。

3.1 韓国語Ⅲクラスにおける実践と学生評価

韓国語Ⅲクラスは、すでに韓国語ⅠとⅡを履修（約78時間）した学生のクラスである。このクラ

⁸ 東北大学のドイツ語クラスの中には、全面 ICT 授業を行っているクラスがある。

スでの試みについて紹介したい。まずは、テスト機能を利用した小テストと、外部 Web サイトへのリンクによってヴァーチャル教材を構築できる WebOCM の e-Learning 教材構築機能を活用した試みから考察しよう。九州大学教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクト（P & P）助成（2006年度～2007年度）によって行われた「IT を活用したアジア言語教育環境の構築」プロジェクトの一環として、2007年度より韓国語ⅠⅡⅢの授業の一部において、自律学習の環境づくりの試みとして WebOCM の活用を開始した⁹。韓国語をはじめて学習する韓国語ⅠとⅡの授業においては、その日に学習した語彙や文法事項を確認できるような Web 小テストを作成し、文法理解のための反復ドリルとして提供した。韓国語Ⅲにおいては、リスニングの自律学習として、韓国の子供教育用 Web サイトに公開されているイソップ物語や世界名作へのリンクによって構築されたヴァーチャル教材を提供し、Web テストを試みた。具体的な手順を示すと、まず、学生は図表 2 の画面から WebOCM にログインし、複数提供されている科目の中から、学生本人が履修している韓国語科目を選んで登録を行う（図表 3）。

図表 2 WebOCM へのログイン画面

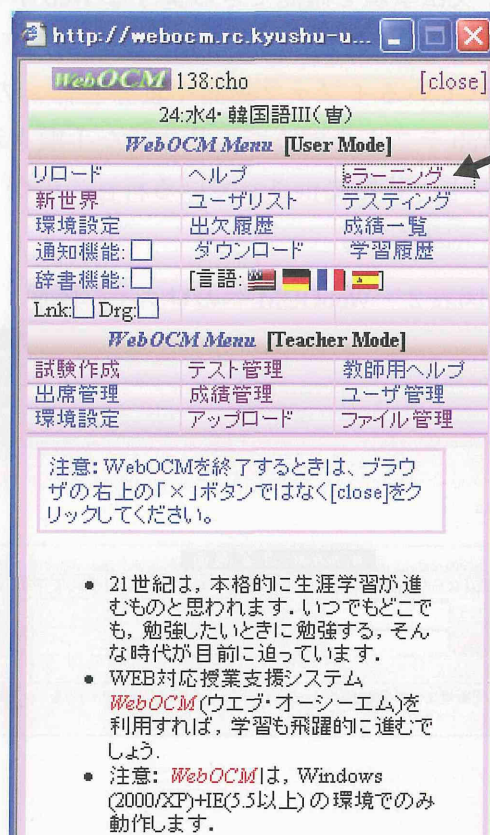
図表 3 韓国語クラスへの登録画面

曜日	時限	科目	教師	TA	備考	CID
Mon.	2	月2・韓国語Ⅰ(金)	金			3
Mon.	3	月3・韓国語Ⅰ(金)	金			8
Wed.	4	水4・韓国語Ⅲ(曹)	曹			24
Thurs.	2	木2・韓国語Ⅰ(曹)	曹			26
Thurs.	3	木3・韓国語Ⅰ(曹)	曹			29
Fri.	2	金2・韓国語Ⅰ(曹)	曹			33
Fri.	3	金3・韓国語Ⅰ(曹)	曹			38
Fri.	4	金4・韓国語Ⅲ(曹)	曹			42

⁹ 九州大学では、第二外国語の一部クラスが ICT を利用している。ドイツ語やフランス語の場合、WebOCM のコンテンツが開発され、提供されている。

図表3で韓国語クラスへの登録が終わると、図表4のようなインターフェースが開く。メニューの中から「eラーニング」の窓を開けると、韓国語クラスで提供されているWeb上のヴァーチャル教材やテスト素材、文化素材、写真素材にアクセスすることができる¹⁰。ここでは、学生個人の興味に合わせて韓国文化を理解してもらおうと、多数の文化関連写真、各種の韓国語Webサイト、日本語の韓国文化紹介サイトなどが提供されている。

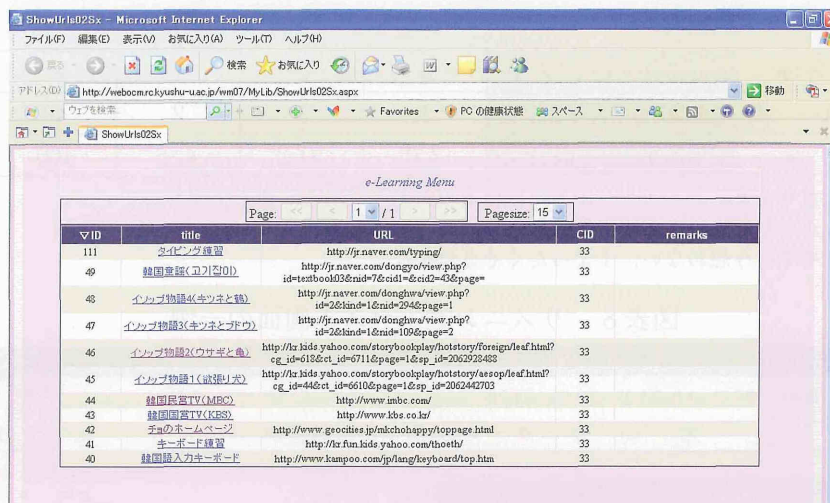
図表4 韓国語クラスのインターフェース



韓国語Ⅲのクラスで、特にリスニングの練習として提供している物語についてみてみよう。学生は毎回提供されるイソップ物語や世界名作物語にアクセスする。提供する物語の選定にあたっては、子供の頃に読んだ馴染みのある物語で、量的にもそれほど長くないイソップ物語を中心に、「ウサギと亀」、「キツネとブドウ」、「田舎のネズミと町のネズミ」などの物語を選択した。いずれもアニメーション付きの物語で、朗読と同時に朗読部分の文字が赤く反転し、音声と文字が同時に提供されるフラッシュ・スタイルのWebサイトである。図表5の画面から学生が特定の物語を選択すると、図表6のように物語がスタートする。

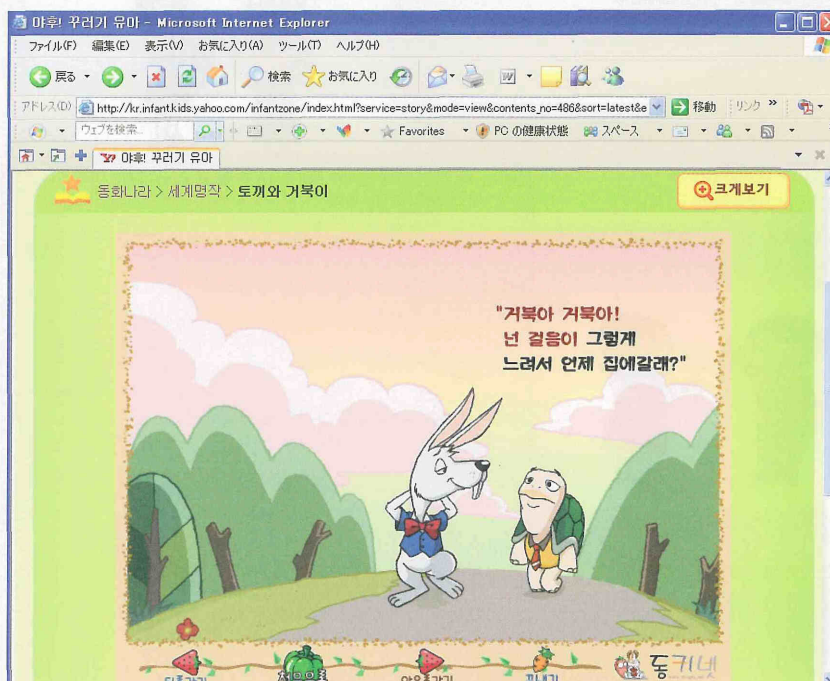
¹⁰ この「eラーニング」では、韓国語ⅠⅡⅢ毎に、「ダイアログ」、「語彙」、「文型」、「文化」、「物語」、「TV ニュースサイト」などの素材にアクセスして学習することが可能である。もっとも、現在提供している「文化」や「物語」の利用度は高いが、「ダイアログ」、「語彙」、「文型」などについては、教室で使っている教科書と直接関係のあるものではないため、学習者の利用度が低かった。そこで、実際教室で使用している教科書の内容に沿った形で「語彙」と「文型」を提供するためのWeb教材の制作に取り組んでいる。

図表5 リスニングのためのイソップ物語と世界名作物語のリンク教材



ID	title	URL	CID	remarks
111	タイピング練習	http://jr.naver.com/typing/	33	
49	韓国童話(고리끼의)	http://jr.naver.com/donggo/view.php?id=46003&mid=7&cid=460243&page=	33	
46	イソップ物語(キツネと鰐)	http://jr.naver.com/donghwa/view.php?id=26&mid=1&cid=2946&page=1	33	
47	イソップ物語(キツネとブドウ)	http://jr.naver.com/donghwa/view.php?id=26&mid=1&cid=1006&page=2	33	
46	イソップ物語(ウサギと亀)	http://kr.kids.yahoo.com/storybookplay/hotstory/foreign/leaf.html?eg_id=d156&id=6711&page=1&sp_id=203292463	33	
45	イソップ物語1(武蔵小)	http://kr.kids.yahoo.com/storybookplay/hotstory/aseop/leaf.html?eg_id=44&id=66106&page=1&sp_id=2062442703	33	
44	韓国民話TV(MBC)	http://www.imbc.com/	33	
43	韓国民話TV(KBS)	http://www.kbs.co.kr/	33	
42	童話のホームページ	http://www.geocities.jp/mchohappy/toppage.html	33	
41	キーボード練習	http://kr.fun.kids.yahoo.com/tboeth/	33	
40	韓国語入力キーボード	http://www.kumpoo.com/jp/lang/keyboard/top.htm	33	

図表6 物語提供サイト：「ウサギと亀」



〈出所：http://kr.infant.kids.yahoo.com/infantzone/index.html〉

この物語をリスニング教材として提供し、授業の中で一度聴かせた後、リスニング力養成のために自律的に繰り返し聴くことを勧めた。学期最後に、韓国語Ⅲのクラスの学生を対象に、リスニングの自律学習効果について質問票調査を行った結果、図表7のような結果が示された。「Web のイソップ物語は、韓国語の聞き取り学習に役立ちましたか」という質問に対し、「5 かなりそう思う」と答えた学生が20名（40.8%）、「4 ややそう思う」と答えた学生が21名（42.9%）となっており、合計41名（83.7%）の学生が学習効果を認めている。「2 ややそう思わない」と「1 まったくそう思わない」と答えた学生は7名（14.3%）に過ぎなかった。

図表7 「Webのイソップ物語は、韓国語の聞き取り学習に役立ちましたか」

評価*	5	4	3	2	1	計
人数	20	21	1	5	2	49
%	40.8	42.9	2.0	10.2	4.1	100

*5点リッカート・スケールの尺度は次のとおりである。以下、同じ。
5かなりそう思う, 4ややそう思う, 3どちらとも言えない,
2ややそう思わない, 1まったくそう思わない。

図表8 リスニング・テスト画面の一例

http://webocm.rc.kyushu-u.ac.jp - XML2HTML01 - Microsoft Internet Explorer

ファイル(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

ウェブを検索

7回目のテスト(リスニング)

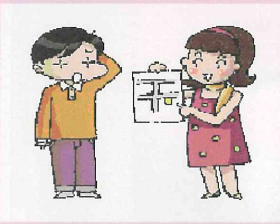
注意: 以下の問題をクリックして、設問に解答して下さい。全ての問題、設問に解答後、「submit」をクリックして、解答を提出願います

問題1(設問数:3) 問題2(設問数:11) 問題3(設問数:3) 問題4(設問数:3) 問題5(設問数:2) 問題6(設問数:4)

submit



問題1
会話スキットの理解問題
CDの会話をよく聞いて、質問に答えなさい。
[Snd] [Stop Snd]



問題2
一般文の内容理解問題
CDをよく聞いて、内容と一致するものを選びなさい。
[Snd] [Stop Snd]

問題3
長いスキットを聞く問題
長いスキットをよく聞いて、質問に答えなさい。28-29
[Snd] [Stop Snd]



設問1 두 사람은 무엇에 대해 이야기 하고 있습니까?
1. ○ 자신의 취미에 대해서
2. ○ 지난 주말에 있었던 일에 대해서
3. ○ 내일의 계획에 대해서

設問2 두 사람은 언제 만나기로 했습니까?
1. ○ 다음주 토요일
2. ○ 눈 오는 날
3. ○ 일년 뒤
4. ○ 내일

設問3 세민 씨는 어디에 가려고 합니까?
1. ○ 남대문
2. ○ 시청
3. ○ 대사관
4. ○ 경복궁

設問1 17.
1. ○ 마이클씨는 가족과 함께 있습니다.
2. ○ 마이클씨는 대사관에서 일합니다.
3. ○ 저는 올해 마이클씨를 처음 만났습니다.
4. ○ 마이클씨는 아내와 아들 한 명이 있습니다.

設問2 18.
1. ○ 수미 씨는 이번 주에 이사를 왔습니다.
2. ○ 수미 씨의 집은 아주 조용한 동네에 있습니다.
3. ○ 수미 씨의 집은 회사에서 멀니다.
4. ○ 수미 씨는 아파트를 사려고 합니다.

-----問題5の設問は以上です-----

設問1 28. 주말에 무엇을 하기로 했습니까?
1. ○ 여행을 가기로 했습니다.
2. ○ 야구를 하기로 했습니다.
3. ○ 공원에 가기로 했습니다.
4. ○ 등산을 하기로 했습니다.

設問2 29. 두 사람은 비가 오면 무엇을 할 겁니까?
1. ○ 도서관에 가기로 했습니다.
2. ○ 박물관에 가기로 했습니다.
3. ○ 미술관에 가기로 했습니다.
4. ○ 약속을 취소하기로 했습니다.

-----問題8の設問は以上です-----

注) 画面右上に Windows Media Player が常駐し、動画などを再生する。

また、このクラスでは、上記以外にも図表8のようなリスニング・テストを Web 上に提供し、学習者の自律的な反復学習を促した。

このリスニング・テストの学習効果についても、同様の質問を行った。「Web に提供されているリスニング・テストの反復が聞き取り能力を高めるのに役立ちましたか」という質問に対し、図表9のような結果が得られた。「5 かなりそう思う」と答えた学生が21名（42.9%）,「4 ややそう思う」と答えた学生が21名（42.9%）となっており、49名中42名（85.6%）もの学生が学習効果を認める肯定的な評価を行っている。リスニングの練習やテストにおいて、自律学習の学習効果が高く評価された結果といえよう。

図表9 「リスニング・テストの反復が聞き取り能力を高めるのに役立ちましたか」

評価	5	4	3	2	1	計
人 数	21	21	0	6	1	49
%	42.9	42.9	0	12.2	2.0	100

WebOCM システムには、成績表示機能が備わっており、テストの成績について、クラス全体の平均と学習者自身の偏差値などが表示されるようになっている。この成績表示に関する質問には、図表10のような結果が示された。「採点結果や平均と成績分布図の表示で、学習意欲が高まりましたか」という質問に対して、「5 かなりそう思う」と答えた人が14名（28.6%）,「4 ややそう思う」と答えた人が25名（51.0%）となっており、合計で39名（79.6%）の人が肯定的な評価を示した。WebOCM の成績表示機能が学生の学習意欲向上にも有効であることが示唆されたことになる。

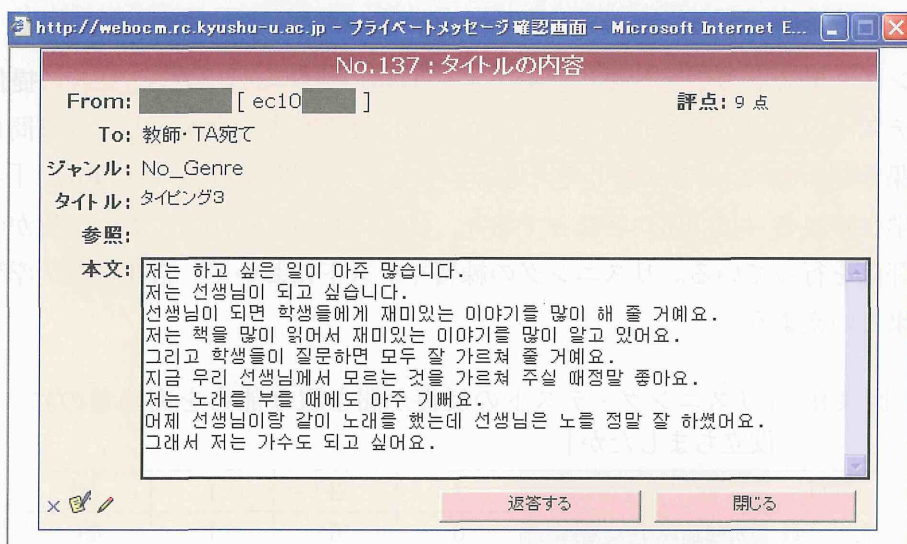
図表10 「採点結果や平均と成績分布図の表示で、学習意欲が高まりましたか」

評価	5	4	3	2	1	計
人 数	14	25	2	7	1	49
%	28.6	51.0	4.1	14.3	2.0	100

韓国語Ⅲクラスの運営において、リスニングの繰り返し練習やリスニング・テストに ICT を導入することで、リスニングの学習効果は明らかに上昇したと考えられる。一方、授業内で繰り返し聴かせる代わりに学生の自律的学習に委ねることで、時間的余裕が生まれ、その時間をタイピングと作文に充てることができた。コミュニケーション・ツールである「新世界」を使って、図表11のように韓国語でのタイピング演習を試みた。この試みには二つの狙いがあり、その一つは、韓国語の特徴である子音と母音の構造が、タイピングによって理解しやすくなるだろうということであった。韓国語のタイピングは、左手で子音をタイプし、右手で母音をタイプするようになっている。韓国語の場合、体言や用言の語幹が子音で終わるのか母音で終わるのかによって、格助詞の接続や活用形変化が異なるので、子音と母音をしっかりと覚えておく必要がある。

二つ目は、タイピングかできれば自分の意見をチャットなどで書き込むことが可能であると考え、当該言語を使って自分の意見を発信できるようにすることであった。このような試みは、実践的コ

図表11 タイピング練習の一例



http://webocm.rc.kyushu-u.ac.jp - プライベートメッセージ確認画面 - Microsoft Internet E...

No.137 : タイトルの内容

From: [ec10] 評点: 9 点

To: 教師・TA宛て

ジャンル: No_Genre

タイトル: タイピング3

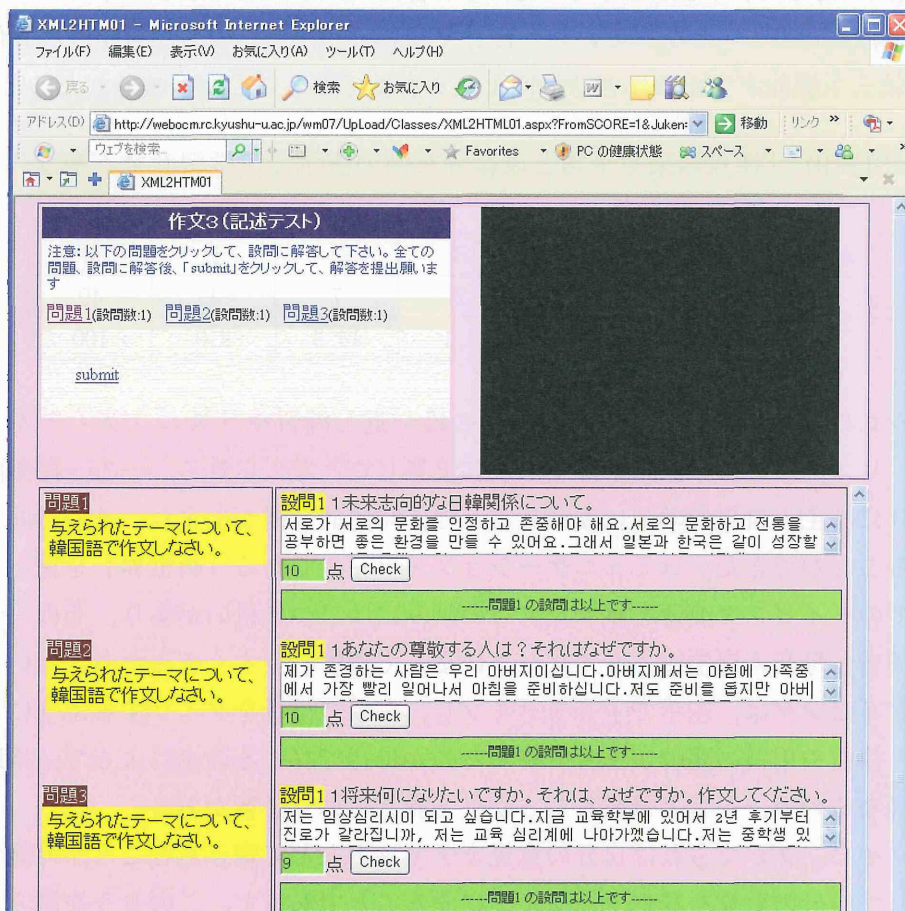
参照:

本文: 저는 하고 싶은 일이 아주 많습니다.
저는 선생님이 되고 싶습니다.
선생님이 되면 학생들에게 재미있는 이야기를 많이 해 줄 거예요.
저는 책을 많이 읽어서 재미있는 이야기를 많이 알고 있어요.
그리고 학생들이 질문하면 모두 잘 가르쳐 줄 거예요.
지금 우리 선생님께서 모르는 것을 가르쳐 주실 때 정말 좋아요.
저는 노래를 부를 때에도 아주 기뻐요.
머제 선생님이랑 같이 노래를 했는데 선생님은 노래 정말 잘 하셨어요.
그래서 저는 가수도 되고 싶어요.

× 返答する 閉じる

コミュニケーション力を養成するために必要不可欠であると考えられる。もっとも、タイピングにおいても、主な練習は自律学習に委ね、教室では「5分間でどのくらいタイピングできるか」などのタイピング力の伸びについてのみ確認を行うことにした。一定程度の速度でタイピングが可能に

図表12 与えられたテーマに対する韓国語作文テストの一例



XML2HTML01 - Microsoft Internet Explorer

파일(F) 編集(E) 表示(V) お気に入り(A) ツール(T) ヘルプ(H)

アドレス(D) http://webocm.rc.kyushu-u.ac.jp/wm07/Upload/Classes/XML2HTML01.aspx?FromSCORE=1&Jiken= 移動 リンク

ウェブを検索

XML2HTML01

作文3(記述テスト)

注意: 以下の問題をクリックして、設問に解答して下さい。全ての問題、設問に解答後、「submit」をクリックして、解答を提出願います

問題1(設問数:1) 問題2(設問数:1) 問題3(設問数:1)

submit

問題1

与えられたテーマについて、韓国語で作文しなさい。

設問1 未来志向的な日韓関係について。
서로가 서로의 문화를 인정하고 존중해야 해요. 서로의 문화하고 전통을 공부하면 좋은 환경을 만들 수 있어요. 그래서 일본과 한국은 같이 성장할

10 점 Check

-----問題1の設問は以上です-----

問題2

与えられたテーマについて、韓国語で作文しなさい。

設問1 あなたの尊敬する人は？それはなぜですか。
제가 존경하는 사람은 우리 아버지입니다. 아버지께서는 아침에 가족들에서 가장 빨리 일어나서 아침을 준비하십니다. 저도 준비를 돕지만 아버

10 점 Check

-----問題1の設問は以上です-----

問題3

与えられたテーマについて、韓国語で作文しなさい。

設問1 将来何になりたいですか。それは、なぜですか。作文してください。
저는 임상심리사이 되고 싶습니다. 지금 교육학부에 있어서 2년 후기부터 진로가 달라질니까, 저는 교육 심리계에 나아가겠습니다. 저는 중학생 있

9 점 Check

-----問題1の設問は以上です-----

図表13 韓国語文章に対する日本語訳（和訳）

読解2(記述テスト)

注意: 以下の問題をクリックして、設問に解答して下さい。全ての問題、設問に解答後、「submit」をクリックして、解答を提出願います

問題1(設問数:1) 問題2(設問数:1)

submit

問題1

次の韓国語の文の意味は何ですか。日本語訳をしてください。

저는 한국 음식을 아주 좋아합니다. 그리고 젓가락도 잘 사용합니다. 저와 함께 식사하는 한국 사람들은 깜짝 놀랍니다. 외국인인 제가 매운 음식을 아주 잘 먹어서 놀라는 것 같습니다.

設問1 1

私は韓国の食べ物が大好きです。そして()もよく使います。私と一緒に食事する韓国の人々は非常に驚きます。しばしば私が辛い食事をとてもよく食べ

9 点 Check

-----問題1の設問は以上です-----

問題2

행복한 가정을 만들기 위해서 가족들이 함께 하는 시간을 가지는 것이 중요합니다. 가족들이 함께 음식을 만들어 보는 시간, 그리고 함께 노는 시간을 가지는 것이 필요합니다.

設問1 2

幸せな家庭を作るうえで、家族たちが一緒にする時間を持つことが重要です。家族たちが一緒に料理を作って見る時間、それで一緒に遊ぶ時間を持つ

10 点 Check

-----問題2の設問は以上です-----

なった時点で、与えられたテーマについての作文を韓国語でタイピングさせることにした。その結果が図表12に示されている。また、図表13にみるように、韓国語文章の日本語訳により、韓国語の情報に対する理解力についても確認を行った。

このように、韓国語Ⅲクラスでは、ICTによる自律学習システムを導入することで、学習効率の向上という本来の目的のみならず、発信可能な実践的外国語運用力を養成するといった副次的な目的をも同時に達成することができたといえよう¹¹。

3.2 韓国語Ⅰ・Ⅱクラスにおける実践と学生評価

次は、韓国語ⅠとⅡのクラス運営と関連したICT化の試みについて述べることにしよう¹²。韓国語Ⅰ・Ⅱのクラスの学生にとって、韓国語は大学に入ってはじめて接する言語であり、文字さえも目に慣れていないのが実情である。それにもかかわらず、近年の韓流ブームと、日本語と文法がほぼ同じであるということから、学生は韓国語に対して親近感を覚えるようである。教室運営においては、基本的には対面授業をメインとするが、教室で学習した内容の理解度を確認するために、Web

¹¹ 図表12と図表13のいずれにおいても、内容を書いて（タイピングして）いくと、画面が下へスクロールするようになっている。

¹² ログインやクラスへの登録等は、3.1の韓国語Ⅲクラスのところで説明した内容と同様である。

上に各課の小テストや文法ドリル、リスニング・テストを提供し、それらを半自律的に繰り返し学習するよう勧めた¹³。具体的には、図表14¹⁴のように小テストや文法ドリル、リスニングが提供されるが、各課で提供される小テストやドリル、リスニングに繰り返しトライすることで、最終的には内容の完全理解を目指した。

Web テスティングでは、各課で学習すべき語彙や文法項目、文型、活用形、談話理解などが、図表15と図表16にみるように、穴埋め形式や選択形式で提供される。ここで提供される小テストやドリルについては、2回目の実施で正解が表示されるような仕掛けとなっており¹⁵、何回でもトライすることができる。学生には、100点満点がとれるまで自律学習を続けるよう勧めた。

図表14 韓国語ⅠとⅡの Web テスティングに提供されるテストやドリルなど

図表15 活用ドリル問題

図表16 文法や談話理解の小テスト問題

¹³ 学生への見返りとして、自律的に行った学習を努力加算点（100点満点中10点）として認めたという意味で、半自律的といえる。

¹⁴ Web テスティングのインターフェースは、韓国語Ⅲのクラスにもあるが、ここでの紹介と重複するので3.1の説明では省略した。

¹⁵ 1回目に、正解を提示し採点することも、正解を提示しないで採点のみ行うことも可能であるが、このクラスでは2回目に正解を表示することにした。最低限1回くらいは、間違ったことについて考えることを求めた。

図表17 個人成績表に見る繰り返しテストと成績（1学期と2学期）

受講者名									
ユーザ名									
It10									
閉じる									
テスト数	テスト平均点	小テスト数	小テスト平均点	練習問題数	練習問題平均点	グラフ			
2	98	6	81	1	81				
ID	タイプ	テスト名前	試行番号	受験日時	得点(選択:記述)	素点(選択:記述)	偏差値	採点	正解
154	テスト	I 前期まとめテスト	1	2007/07/13 14:23:12	97(97:)	(39:)	58.0	Q	-
149	テスト	I 前期まとめリスニング	1	2007/07/13 14:01:38	100(100:)	(14:)	56.0	Q	-
145	小テスト	小テスト11課	1	2007/07/13 13:28:24	80(80:)	(8:)	40.0	Q	-
124	練習問題	活用形リル	1	2007/06/22 13:30:43	49(49:)	(37:)	59.0	Q	-
124	練習問題	活用形リル	2	2007/07/12 17:26:07	78(78:)	(59:)	87.0	Q	-
124	練習問題	活用形リル	3	2007/07/12 17:44:10	98(98:)	(74:)	107.0	Q	-
124	練習問題	活用形リル	4	2007/07/12 18:01:42	100(100:)	(75:)	109.0	Q	-
94	小テスト	小テスト7課	1	2007/06/08 13:07:13	100(100:)	(20:)	58.0	Q	-
77	小テスト	小テスト5課	1	2007/05/25 13:11:31	61(61:)	(13:)	51.0	Q	-
77	小テスト	小テスト5課	2	2007/06/21 11:39:50	90(90:)	(19:)	71.0	Q	-
77	小テスト	小テスト5課	3	2007/07/12 16:54:17	90(90:)	(19:)	71.0	Q	-
77	小テスト	小テスト5課	4	2007/07/12 16:59:28	95(95:)	(20:)	74.0	Q	-
77	小テスト	小テスト5課	5	2007/07/12 17:04:17	100(100:)	(21:)	78.0	Q	-
51	小テスト	小テスト3	1	2007/05/11 13:13:17	65(65:)	(13:)	56.0	Q	-
51	小テスト	小テスト3	2	2007/06/21 11:19:04	95(95:)	(19:)	72.0	Q	-
51	小テスト	小テスト3	3	2007/06/21 11:23:58	100(100:)	(20:)	75.0	Q	-
27	小テスト	2回目小テスト	1	2007/04/27 13:15:56	85(85:)	(17:)	53.0	Q	-
27	小テスト	2回目小テスト	2	2007/06/21 10:54:33	90(90:)	(18:)	56.0	Q	-

受講者名									
ユーザ名									
ds10									
閉じる									
テスト数	テスト平均点	小テスト数	小テスト平均点	練習問題数	練習問題平均点	グラフ			
0	0	8	68	0	0				
ID	タイプ	テスト名前	試行番号	受験日時	得点(選択:記述)	素点(選択:記述)	偏差値	採点	正解
233	小テスト	19課リスニング	1	2008/01/23 15:02:38	64(64:)	(11:)	42.0	Q	-
233	小テスト	19課リスニング	2	2008/01/23 15:08:09	100(100:)	(17:)	65.0	Q	-
232	小テスト	21課小テスト	1	2008/01/17 14:00:12	77(77:)	(14:)	57.0	Q	-
232	小テスト	21課小テスト	2	2008/01/17 14:03:02	83(83:)	(15:)	61.0	Q	-
232	小テスト	21課小テスト	3	2008/01/17 14:16:05	94(94:)	(17:)	69.0	Q	-
232	小テスト	21課小テスト	4	2008/01/17 14:20:26	100(100:)	(18:)	73.0	Q	-
217	小テスト	19課小テスト	1	2007/12/13 13:09:40	73(73:)	(11:)	51.0	Q	-
217	小テスト	19課小テスト	2	2007/12/13 13:10:32	86(86:)	(13:)	57.0	Q	-
217	小テスト	19課小テスト	3	2007/12/13 13:46:52	100(100:)	(15:)	65.0	Q	-
210	小テスト	17課小テスト	1	2007/11/15 14:20:23	94(94:)	(17:)	60.0	Q	-
210	小テスト	17課小テスト	2	2007/11/15 14:21:04	100(100:)	(18:)	65.0	Q	-
210	小テスト	17課小テスト	3	2007/11/29 12:54:59	100(100:)	(18:)	65.0	Q	-
199	小テスト	15課リスニング	1	2007/11/08 13:29:52	52(52:)	(9:)	30.0	Q	-
199	小テスト	15課リスニング	2	2007/11/08 13:31:48	76(76:)	(13:)	49.0	Q	-
199	小テスト	15課リスニング	3	2007/11/15 12:44:54	88(88:)	(15:)	58.0	Q	-
199	小テスト	15課リスニング	4	2007/11/15 12:53:27	100(100:)	(17:)	68.0	Q	-
193	小テスト	15課小テスト	1	2007/11/01 13:11:21	65(65:)	(13:)	42.0	Q	-
193	小テスト	15課小テスト	2	2007/11/15 12:37:02	75(75:)	(15:)	49.0	Q	-
193	小テスト	15課小テスト	3	2007/11/15 12:37:37	90(90:)	(18:)	59.0	Q	-
193	小テスト	15課小テスト	4	2007/11/15 12:38:00	100(100:)	(20:)	66.0	Q	-
188	小テスト	13課リスニング	1	2007/10/18 13:33:20	70(70:)	(12:)	42.0	Q	-
188	小テスト	13課リスニング	2	2007/11/08 12:48:05	88(88:)	(15:)	57.0	Q	-

韓国語Ⅰ・Ⅱクラスの学生の個人成績は、図表17のように表示される¹⁶。100点満点がとれるまでトライすることを勧め、それを努力点として成績に加算することにした。図表17には、学生個人の

¹⁶ この成績表示については、韓国語Ⅲのクラスにおいても行われているが、ここでの紹介と重複するので3.1の説明では省略した。

努力や成績の推移が一例として表示されているが、繰り返し学習によって成績が徐々に上がっていく様子が確認できる。

韓国語ⅠとⅡに提供されたリスニング・テストについては、1学期は期末に1回のみ行ったが、2学期は3回提供された。問題形式としては、1フレーズで単語を聞き取る問題、単純会話の1ターンの話を聞き取る問題、2～3ターンで談話を理解する問題などに分けられ、学生がリスニングに拒否反応を起こさないように配慮しながら、例えば、図表18のように構成されている。

図表18 韓国語Ⅰ・Ⅱのリスニング・テストの一例

15課リスニング

注意: 以下の問題をクリックして、設問に解答して下さい。全ての問題、設問に解答後、「submit」をクリックして、解答を提出願います。

問題1(設問数:5) 問題2(設問数:5) 問題3(設問数:4) 問題4(設問数:2) 問題5(設問数:1)

submit

問題1
CDの発音を聞いて、正しいものを選んでください。
CDは1回のみ発音します。次の問題に移るまで10秒あいています。
[Submit] [Stop] [Submit]

問題4
CDの会話を聞いて、質問に答えなさい。
CDの会話は1回発音します。次の問題に移るまで10秒あいています。
[Submit] [Stop] [Submit]

問題5
CDの会話を聞いて、正しいものを選びなさい。
CDの会話は1回発音します。
[Submit] [Stop] [Submit]

設問1 가 어디가 아프세요?
[1] 나: () ----- [2] 가 아프고 열이 나요.
設問2 가 어떻게 오셨어요?
[1] 나: () ----- [2] 이 아파서 왔어요.
設問3 목이 아파요. 어떻게 해요?
[1] 나: () ----- [2] 를 마셔 보세요.
設問4 가 언제부터 아프셨어요?
[1] 나: () ----- [2] 전 부터요.
設問5 가: [1] 여기서 () ----- [2] 을 찍어도 돼요? 나: 아니요. 찍지 마세요.
----- 문제1의設問은 5이상입니다 -----

設問1 이 사람은 무엇을 좋아합니까? [Submit] [Stop] [Submit]
1 ○ 김밥
2 ○ 김치
3 ○ 비빔밥
4 ○ 찌개
設問2 이 사람은 어디에 갑니까? [Submit] [Stop] [Submit]
1 ○ 대사관
2 ○ 도서관
3 ○ 서점
4 ○ 사진관
----- 문제4의設問은 2이상입니다 -----

設問1
1 ○ 두 사람은 드라이브했습니다.
2 ○ 두 사람은 드라이브하려고 합니다.
3 ○ 두 사람은 산에 갑니다.
4 ○ 만지씨는 드라이브했습니다.
----- 문제5의設問은 1이상입니다 -----

韓国語ⅠとⅡクラスの学習者に対し、2007年度末の最後の授業において、ICTを用いた授業の学習効果について、以下のような質問票調査を行った¹⁷。「Web上で反復練習を行うのは、効果的な学習法だと思いますか」という質問に対して、図表19にみるように、「5かなりそう思う」と答えた人が28名(26.2%)、「4ややそう思う」と答えた人が56名(52.3%)で、学習効果について肯定

¹⁷ 韓国語ⅠとⅡの履修者は、一部の再履修者を除き、前期と後期で学習する通年学習者である。2007年度後期に担当した3クラスの学生すべてを対象に質問票調査を行った。

的な評価を示した人が84名（78.5％）に上り，初級学習者に対する ICT 授業の試みは概ね成功したといえそうである。

図表19 「Web 上で反復練習を行うのは，効果的な学習法だと思いますか」

評価	5	4	3	2	1	計
人 数	28	56	10	9	4	107
%	26.2	52.3	9.3	8.4	3.7	100

次に，「韓国語のはじめてのリスニングとして，Web リスニング・テストは学習に役立ちましたか」という質問に対しては，図表20のような結果が示された。すなわち，「5 かなりそう思う」と答えた人が37名（34.6％），「4 ややそう思う」と答えた人が59名（55.1％）で，9 割もの学生が学習に役立ったと答えている。これについて，何人かの学生は，自由記述欄に「簡単なフレーズや2～3 ターンの短い会話がテスト形式で提供されるので，緊張感をもって取り組むことができた」と書いており，Web リスニング・テストはリスニングの練習としてかなり効果的であることが分かる。

図表20 「Web リスニング・テストとは学習に役立ちましたか」

評価	5	4	3	2	1	計
人 数	37	59	7	4	0	107
%	34.6	55.1	6.5	3.7	0	100

次に，「ICT を活用した Web テスト（文法・リスニング）の提供が学習に役立ちましたか」という質問に対して，図表21にみるように，107名中92名（86％）の学生が肯定的な評価を与えている。

図表21 ICT 活用と総合的な学習評価

評価	5	4	3	2	1	計
人 数	45	47	5	9	1	107
%	42.1	43.9	4.7	8.4	0.9	100

以上から，韓国語ⅠとⅡのクラスにおいて，ICT を活用した自律学習が明らかに学習効果を高めたことが確認された。さらに，ICT を活用した自律学習を導入することで，限られた時間の有効活用が可能となり，授業内で学生のコミュニケーション・スキルを磨くためのインタラクティブな活動が行えるようになった。また，韓国語Ⅲの授業においては，当該言語で異文化間コミュニケーションが可能な基礎体力作りができたと思われる。大学における第二外国語学習の意義ならびに今後のあり方を考えると，ICT を活用した自律学習が示唆するものは大きいといわざるを得ない。

4. ICT による自律学習の効果と今後の課題

大学で第二外国語を学ぶ意義は，語学力養成のみや異文化理解のみではなく，当該言語を用いて

異文化間コミュニケーション力を養成することにある。異文化間コミュニケーション力を養うということは、異文化に関する情報を当該言語で収集・理解し、その異文化についての自分の意見を当該言語で表現できることを意味する。異文化間コミュニケーションを可能にするためには、かなりの語学力と当該異文化についての知識が要求される。しかし、日本の大学における第二外国語教育の現場では、異文化間コミュニケーションを行えるほどの文化理解と語学力を養えるほどの授業時間が与えられていないのが実情である。だからといって、大学の語学授業が、駅前の学習塾のような語学力養成のみの授業に留まってはならない。また、異文化の紹介をメインとする文化センターの教養講座のレベルに留まるのも問題である。

大学で第二外国語を学ぶ真の目的を実現しようとするれば、現状の授業時間では少な過ぎる。各大学では、第二外国語のおかれているこのような問題を解決すべく、多様な工夫や試みがなされている。九州大学においても、「IT 技術を活用したアジア言語教育環境の構築」プロジェクトにおいて、さまざまな試みがなされている。その試みの一つとして、筆者の担当する韓国語クラスでは、ICT を活用した自律学習システムを導入した。その結果、従来授業内で行っていた一定の学習を学生自らの自律学習に委ねることによって、学生個々人の学習理解度を大幅に向上させることができたと思われる。また、異文化間コミュニケーションを可能にするための基礎力の養成においても、ICT を活用した自律学習システムの効果は認められたといえよう。

大学における第二外国語教育の意義ならびに今後のあり方を考えると、ICT を活用した自律学習が示唆するものは大きい。しかし一方では、ICT を活用した自律学習の定着のために解決していかなければならない課題も多い。ICT の活用を持続的に効率的に行うためには、まず学生の自律学習をスムーズに導けるさまざまなコンテンツの開発が求められよう。また、学生個々人の自律学習の進め方や、自律学習時に遭遇する多様なトラブル等に対応できる環境ならびにサポート・システムを整備・構築していくことも最優先課題の一つである。この分野における今後のさらなる進展を期待したい。

* 本稿は、九州大学教育研究プログラム・研究拠点形成プロジェクト (P&P) 助成 (2006年度～2007年度) によって行われた「IT 技術を活用したアジア言語教育環境の構築」の研究成果の一部である。

参考文献

井上奈良彦・大津隆広・志水俊広・田中俊明・田中陽子・田畑義之・松田隆治 (2002) 「ヨーロッパの学校教育における外国語教育」『言語文化叢書Ⅱ』, 九州大学大学院言語文化研究院。

欧州連合駐日欧州委員会代表部公式ホームページ:

http://www.deljpn.ec.europa.eu/home_jp.php

国際文化フォーラム (2005) 『日本の学校における韓国朝鮮語教育—大学等と高等学校の現状と課題—』, 財団法人国際文化フォーラム, 東京。

曹美庚 (2007) 「活用形から引く韓国語 Web 辞書の開発に関する一考察」『言語科学』, 第42号, pp. 49-62.

曹美庚・李相穆（2008）「韓国語学習者のための Web 辞書の開発」『e-Learning 教育研究』, Vol. 2, pp. 63-73.

杉浦謙介・李相穆・佐藤滋（2006）「WebOCM の教材作成・管理系機能の特徴」『ドイツ語情報処理研究』, Vol. 17, pp. 25-38.

杉浦謙介「WebOCM による e-ラーニング実施マニュアル」ホームページ：

http://www.he.tohoku.ac.jp/~sugiura/elearning_manual/

杉浦謙介・細谷行輝・伊藤直哉・竹蓋順子・大久保政憲・鈴木敦典・曹美庚・大前智美・李相穆（2007）「外国語 e ラーニングシステムとしての WebOCM」『LET 第47回全国研究大会発表論文集』, 外国語教育メディア学会, pp. 226-231.

平尾節子（2002）「EU（ヨーロッパ連合）における言語政策の研究：ギリシャの外国語教育」『愛知大学 言語と文化』, No. 8, pp. 29-57.